

玉城工場 2016 年度 環境データ

環境パフォーマンス

(絶対量)

項目	単位	2015年度	2016年度
エネルギー	kL (原油換算)	6,914	8,373
CO ₂	t-CO ₂	13,740	16,024
水	m ³	31,412	55,104
産業廃棄物排出量	kg	491,915	760,588
排水量	m ³	7,451	17,559

大気関係

項目	施設名	法・公約 規制	京セラ 管理基準	自主 管理基準	実測値		
					平均値	最大値	測定頻度
対象外				—			

大気関係 排出総負荷量

(単位：トン)

項目	排出総負荷量	
	2015年度	2016年度
対象外		—

水質関係

項目	法・公約 規制	京セラ 管理基準	自主 管理基準	実測値		
				平均値	最大値	測定頻度
水素イオン濃度 (pH)	5.6 ~ 8.6	—	6.3 ~ 8.1	6.9	7.6	1回/月
生物化学的酸素要求量 (BOD)	160	—	9	1.6	6.7	1回/月
化学的酸素要求量 (COD)	160	—	9	2.6	5.4	1回/月
浮遊物質 (SS)	200	—	4.5	0.1	1.0	1回/月
ノルマルヘキサン抽出物質	5	—	4.5	1未満	1未満	1回/月
大腸菌群数 (個/cm ³)	3,000	—	315	30未満	30未満	1回/月
窒素 (mg/L)	120	—	54	2.0	1.5	1回/月
リン (mg/L)	16	—	7.2	0.2	0.6	1回/月

水質関係 排出総負荷量

(単位：トン)

項目	排出総負荷量	
	2015年度	2016年度
化学的酸素要求量 (COD)	0.03	0.06
生物化学的酸素要求量 (BOD)	0.03	0.05

悪臭関係

基準値の超過はありません

騒音・振動関係

基準値の超過はありません

PRTR対象物質

(単位：トン)

物質番号	対象物質	取扱量	排出量			移動量		その他の量		
			大気排出	水域排出	土壌排出	廃棄物	下水道	リサイクル	消費	除去処理
30	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸およびその塩	9.1	0	0	0	0.1	0	0	9.0	0
31	アンチモンおよびその化合物	1.7	0	0	0	0	0	0	1.7	0
報告対象物質合計		10.8	0	0	0	0.1	0	0	10.7	0

環境保全効果

効果内容	投資金額 (千円)	効果金額 (千円)	効果量
エネルギー削減	11,406	1,620	34kL (原油換算)
廃棄物削減		1,361	27,484kg
水削減		132	736m ³
その他		1,147	—
合計	11,406	4,260	—



事業内容

カラー・モノクロトナーの製造

敷地総面積 : 101,511m²
建築延床面積 : 36,552m²
緑地総面積 : 20,642m² (緑化率: 20.3%)
従業員数 : 305名 (2017年3月末現在)

電力使用量 : 32,936,680 kWh (2016年度)
水使用量 : 55,104m³ (2016年度)
産業廃棄物排出量 : 760,588kg (2016年度)

工場長ごあいさつ



工場長 植原 総一

玉城工場は、各種トナー(複合機やプリンター用の粉末状のインク)の開発から生産までを担う、主力工場です。また複合機などの機器組立に用いる治工具の開発も行っており、「ものづくり技術」を継承するためのマザープラントとしても、その役割を担っている重要な拠点です。この重要な事業活動を永続的に発展させ続けるためには、地域社会との共生が、企業には求められています。工場の周辺は自然環境に恵まれており、住宅地、農作地にも隣接しています。そのため当工場は、特に環境保全と地域との共生、安全な職場の実現を最重要課題と認識して取り組んでいます。

環境保全に関しては、工場排水、騒音、粉塵などを対象に排出基準の管理を徹底しています。このような環境への取り組みについて、毎年、社会環境報告会を開催し、近隣住民の皆さま、地元の行政機関の皆さまに出席をいただき、取り組みの内容を報告しています。

地域との[共生]につきましては、近隣4地区の区長さまと懇談会を開催し、意見交換を行いながら活動を推進しています。このほか継続して取り組んでいる地域公共施設の清掃活動や、毎年夏には夏祭りを開催し、多数の地域住民の皆さまに来場いただき、友好的な関係を築かせていただいています。

2016年度 環境目標と実績

環境目的	項目	2016年度目標	2016年度実績	結果	コメント
低炭素社会への貢献	温室効果ガス排出量原単位の削減 (kg-CO ₂ /kg) 原単位分母: トナー生産量	4.0%削減 (2012年度比)	17.5%増加 (2012年度比)	未達成	新製品の立ち上げにより、電気使用量が増加
	エネルギー使用量(原油換算量)原単位の削減 (kL/kg) 原単位分母: トナー生産量	4.0%削減 (2012年度比)	20.8%増加 (2012年度比)	未達成	新製品の立ち上げにより、電気使用量が増加
循環型社会への貢献	産業廃棄物排出量原単位の削減 (kg/kg) 原単位分母: トナー生産量	4.0%削減 (2012年度比)	19.8%削減 (2012年度比)	達成	トナー開発器具洗浄方法の改善により、産業廃棄物として廃棄されるトナー含有廃水を削減
	水使用量原単位の削減 (m ³ /kg) 原単位分母: トナー生産量	4.0%削減 (2012年度比)	61.1%増加 (2012年度比)	未達成	新製品の立ち上げにより、設備冷却水が増加

社会環境報告会を開催

2016年10月27日に、玉城町長をはじめとする32名の皆さまに出席いただき、環境に配慮した取り組みや地域貢献活動を報告しました。玉城町長からは、地域の全小学校に対する環境出前授業(Kids'ISO)や、田丸城址の清掃ボランティアなどの地域貢献活動へのお礼と共に、第7工場建設による更なる工場の発展に期待する旨の講評をいただきました。



報告会会場

Kids'ISO14000環境出前授業を実施

三重県では、三重県環境基本計画を踏まえ、環境教育の実践活動として、県内の小学校児童が家庭における省エネルギーなどの活動を通じて環境への関心を高める「Kids'ISO14000プログラム(入門編)」の取り組みを推進しています。このプログラムに協力し、玉城町の全4小学校で、授業を行いました。保護者や先生方からは「省エネに対する意識向上の良い機会になった」というお言葉をいただきました。



授業の模様

地域での清掃ボランティア活動

労働組合と共催で行う清掃ボランティア活動として、玉城町が春と秋に主催する、田丸城跡クリーン作戦に毎年参加しています。また、NPO法人との協力により松名瀬干潟海岸の清掃ボランティア活動を通し、地域住民の憩いの場の環境を守ることを目標に日々活動を行っています。



田丸城での清掃作業



松名瀬干潟海岸の清掃ボランティア活動

玉城町役場の管理職研修にて工場長が講演

2016年10月28日、玉城町役場主催の管理職研修にて、植原工場長が玉城町からの要請を受け、「京セラの企業哲学をベースとした海外工場でのマネジメントを学ぶ」と題した講演を行いました。研修に参加された職員の皆さまはほとんどが玉城町出身の方で、「日頃玉城町以外のことを知る機会も無いため、このように企業の考え方や海外の取り組みを知ることが非常に有意義であり、町民の方と接する上で大きなヒントを得ることができた」と話されていました。



さまざまな事例に聞き入る玉城町職員の方々

職場体験

地域の青少年育成活動の一環として、玉城町内の中学生の職場体験を積極的に受け入れています。2016年度の中学生の職場体験では、プリンターを用いたトナー・現像剤の評価の体験を通して、生徒からは、「体験学習を通して、いろいろなことに疑問を持つことやコミュニケーションの大切さを改めて教わりました。」との感想をいただきました。



中学生の職場体験学習

夏祭りを開催

2016年7月23日に開催された夏祭りでは、地域の皆さまやお取引先さま、社員合わせて約1,900名に來場いただきました。福祉バザー、PK合戦、塗り絵などの催し物コーナーや、ヨーヨー・金魚すくいなどの模擬店、ステージでの新入社員によるショーや社員バンドによる演奏が、大変好評でした。地元の「玉丸城太鼓保存会」による迫力あるショーもご披露いただきました。最後は、迫力満点の夏の風物詩「打ち上げ花火」を実施しました。



迫力満点の花火

労働安全衛生・健康管理の取り組み

当工場では、労働災害撲滅や社員の健康管理を目的として、毎月実施している全体朝礼時に、京セラグループの労働災害の報告や、保健師から熱中症、インフルエンザ、感染予防、健康診断結果の活用などの健康管理のアドバイスを、労働安全衛生の啓発活動を推進しています。労働安全衛生の取り組みとしては、日頃の安全衛生改善活動、リスクアセスメントやヒヤリハット活動を展開しています。また、毎月の工場長や安全管理者の安全衛生パトロール、毎週の衛生管理者パトロール、また、半年に一回京セラドキュメントソリューションズグループ環境安全統括者の安全衛生パトロールを行い、不安全な箇所や作業がないことを確認しています。



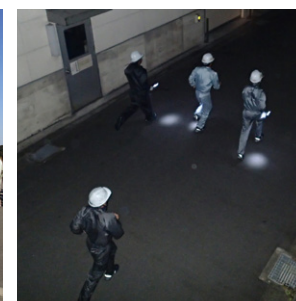
全体朝礼時の報告会

防災への取り組み

三重県は南海トラフの巨大地震発生予想地域であり、日頃より災害発生時の被害を最小限にとどめられるように、緊急地震速報システムを設置するとともに、防火防災訓練を定期的に実施しています。防火防災訓練では、緊急地震放送による自分自身の身を守る初動訓練、火災発生を想定した通報連絡や初期消火訓練、全員参加による避難訓練を行っています。また、AED使用訓練、屋外消火栓操作訓練などのほか、2012年より夜間の災害発生に備えた夜間防災訓練を加え、災害発生時の対応強化を図っています。



総合防火防災訓練



夜間防火防災訓練

多目的室の設置

当工場では、日頃から社員の健康に対する意識向上を図る取り組みを行っています。その一環として、工場内の共有場所に健康器具・卓球台を設置した「多目的室」を設け、社員の適度な運動やコミュニケーション機会を創出して、活気ある職場環境の構築や、社員が自ら健康増進に取り組める一助としています。



多目的室

交通安全への取り組み

当工場では通勤や業務上で車両を利用することが多く、交通安全講習会の実施などの交通安全活動を行っています。社有車運転資格制度を設け、「運転資格者は社内の認定基準を満たした者」と定め、交通安全「SDカード」の保有も条件としています。社有車にはドライビングアナライザー[※]を設置して車両運行状況を確認し、社有車運転者の安全意識の向上につなげています。また、全国交通安全週間には、地域と連携して街頭での交通安全キャンペーンにも参加しています。

[※]ドライビングアナライザー：運転状況(速度・急加速・急ブレーキ)などを記録し、危険挙動がないか確認できる。



社員が参加する交通安全キャンペーン